

(平成19～21年度)普及促進委員会 活動概要

普及促進委員会 委員長 坊垣 和明 (東京都市大学)

1. 普及促進委員会の目的と活動方針

1. 1 普及促進委員会の目的

普及促進委員会は、各部会での調査研究活動の支援および成果の広報等を集約し効率的に実施することを目的として設置された。

1. 2 活動内容と方法

(1) 成果の普及・広報

各部会における成果を普及促進するためのシンポジウムや講演会の開催、メディアへの広報ならびにその支援を行う。

(2) 調査・研究活動の支援

例えば、複数の部会にまたがる調査・研究活動を統括する、あるいは民間等を含む複数の機関による共同研究の支援(研究費獲得など)を行う、等の活動が考えられる。

(3) 調査や研究および成果の普及のための組織の設立・運営

産学官の連携による共同研究等の効果的な推進のための組織として、コンソーシアムを設立し、その運営を行う。

2. 活動の概要

(1) 成果の普及・広報

①シンポジウムの開催

■第1回健康維持増進住宅シンポジウム

2007年12月17日(月) すまい・るホール

内容:

基調講演「健康維持増進住宅におけるヘルスキャピタル概念の構築」村上委員長

特別講演「医学分野における健康増進の考え方と住宅・建築への期待」

北里大学教授 坂部 貢

各部会報告 (吉野博、田辺新一、小泉雅生、伊香賀俊治)。

参加者 255名(一般206名、関係者49名)

■第2回健康維持増進住宅シンポジウム

2008年9月5日(金) TOKYO FM FALL

内容:活動報告(村上委員長)、各部会報告(吉野博、田辺新一)。

特別講演「住まいと人の寿命」 首都大学東京教授(星旦二氏)

参加者 239名(一般179名、関係者60名)

■第3回健康維持増進住宅シンポジウム

2009年3月26日(木) 建築会館ホール

内容:「住宅と健康に関する先端研究の動向と居住者の意識・満足度」

活動経過(村上委員長)、各部会報告(長谷川兼一、田辺新一、伊香賀俊治、

小泉雅生)、海外先端研究(吉野博)。

参加者 212名（一般174名、関係者38名）

■第4回健康維持増進住宅「出版記念」シンポジウム

2009年10月9日（金） すまい・るホール

内容：「健康で快適な住まいとコミュニティーのあり方を探る」

本の内容に関連する講演・解説（村上委員長、坂部貢、吉野博、星旦二）、
海外調査報告（田辺新一、秋元孝之）。

参加者 239名（一般185名、関係者54名）

②出版

出版委員会（各部会主査、幹事、普及促進委員会委員長で構成）を設け、入門書の出版を企画・実施した。

■2009年10月に入門書、「健康維持増進住宅のすすめーなぜ今、住まいの健康かー」を発行した。大成出版社、184p、1700円（税込み）。

(2) 調査・研究活動の支援

①アイデアコンペ

設計部会と連携し、健康維持増進住宅設計コンペティションを計画・実施。

■第1回 健康維持増進住宅設計コンペティション 2008-2009

「人を健康にする住空間～住空間が健康のためにできること～」

（審査委員長、隈研吾慶応義塾大学教授）

応募締切 2009年3月13日（金） 公開審査 3月26日（木） 建築会館ホール

事前登録 710件 応募数 308点

最優秀2点（一般、学生各1）、入賞4点、佳作7点

■第2回 健康維持増進住宅設計コンペティション 2009-2010

「人を健康にする住空間～住空間が健康のためにできること～」

（審査委員長、吉野博東北大学教授）を実施中

応募締切 2010年3月12日（金） 公開審査 3月29日（月） 建築会館ホール

事前登録 700件 応募数 224点 （入賞候補12点を選定）

②海外の先進研究調査

■低減部会と連携し、2008年11月に北米大陸での先進研究動向の調査を実施した。

「室内空気環境と健康に関するカナダ・米国における研究動向の調査」

■増進部会と連携し、2009年6月にヨーロッパでの先進取組事例の調査を実施した。

「ヨーロッパにおける健康維持増進住宅と健康コミュニティーに関する先進事例調査」

(3) 調査や研究および成果の普及のための組織の設立・運営

①コンソーシアムの運営

産学官の合同による健康維持増進研究コンソーシアム（村上周三会長、発会式 2008年7月10日（木））を設立・運営した。民間企業から、設立時19社、現在21社（部会参加19社、情報提供のみ2社）が参加。

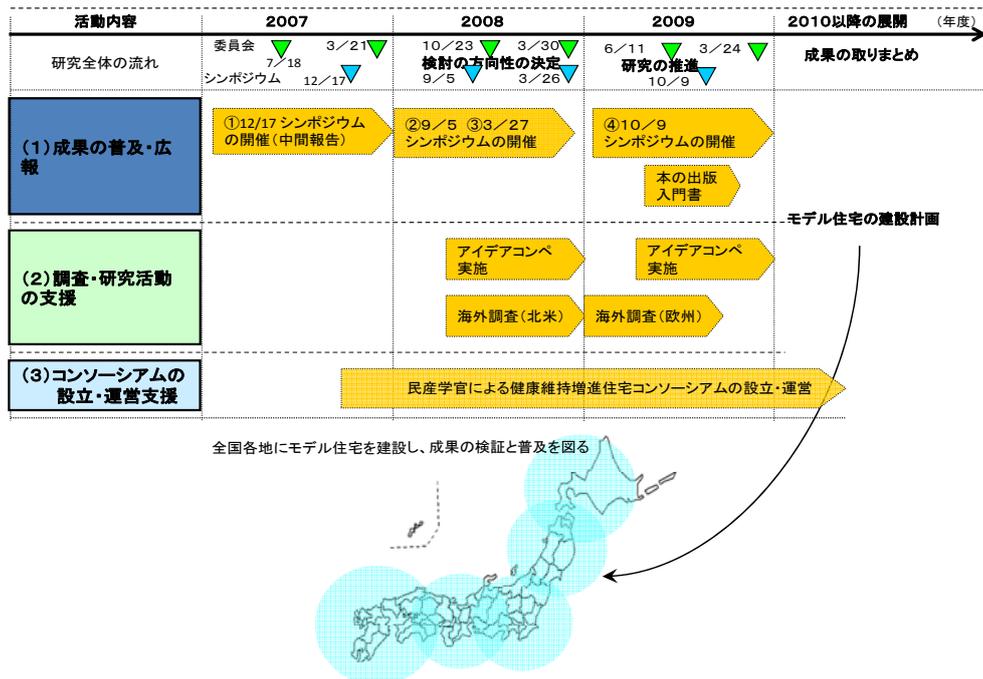


図1 普及促進委員会の活動

図1 普及促進委員会の活動